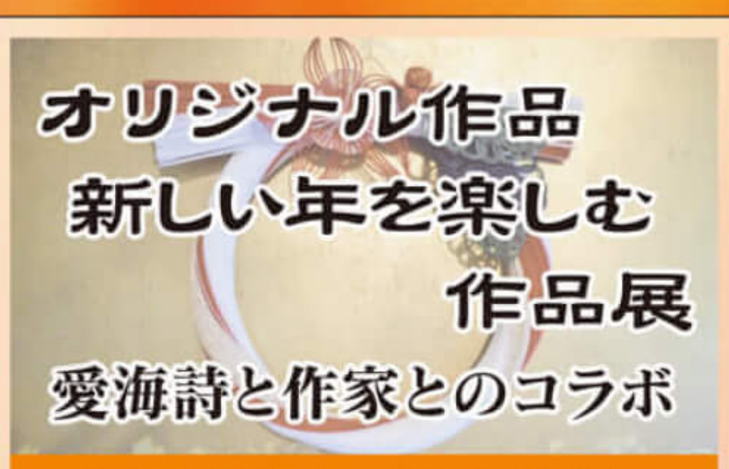
Gallery 愛海詩 えみし

◎新型コロナウイルス感染予防ガイドラインに沿って対応させていただきます。
◎ギャラリー愛海詩へいらっしゃる時は、そのご予定をお手数ですがお電話下さい。



オリジナル作品 新しい年を楽しむ 作品展

愛海詩と作家とのコラボ

1月5日～1月23日

彩遊の号　No.41
愛海詩の会
会　報
令和3年12月25日発行
編集発行人／ギャラリー愛海詩
佐藤睦子

〒064-0821
札幌市中央区北1条西28丁目2番17号
TEL・FAX／(011)613－1112
WEBSITE
http://www.emishi-s.com
E-mail:kougei@emishi-s.com

「新しい年へつなぐ…」

令和三年、振り返れば正にコロナ禍に翻弄された一年でありました。ギャラリー愛海詩も休業状態にあり、作品展は、四月の欧州刺繍・高木きらら氏、十月の備前焼の木村桃山氏の二回しかできず、出張へは一度も行くことができませんでした。長く現場主義の仕事をしてきた私には、手足を縛られているような気にもなりました。

そのような中でも美しい光のようなものも見えました。職人・作家がめげることなく、各々の分野で励んでいる事、愛海詩の会の会員を始め、みなさまがこの小さなギャラリー愛海詩に思いを寄せて下さった事などです。木村桃山氏の茶会には長く会員を更新して下さっている方々が集い、励ましの言葉や作品とのご縁もいただき、ギャラリー愛海詩・愛海詩の会、二十三年間のささやかな歴史を思い、胸がいっぱいになりました。コロナ禍の中で、見えてくる人間模様に本質を照らせば、美しい心はより輝いて感じられ、長くお支え下さるみなさまが寄せる思いは余計、心に染み、まずは、しっかりと仕事の中でお返しして行く、ということを強く思いました。「大変だ、不安だ、どうしよう…」と立ち止まるわけには参りません。私の仕事は、少しずつ積み重ねていく、飽きずに諦めずに文化的働きを積み重ねて行く事でもあります。時に、積み重ねたな…と思っても崩れてしまうこともあり、学びの中でまた積み重ねる。文化の華を咲かせるのは、時間がかかります。その華は不毛の地には咲きません。そしてまた、自分の思いがしっかり伝わらないのは、こちら側、伝える側の力量不足もあります。みなさまへの感謝の中で、言葉と行動をもって理解していただくよう、努めて行くことの大切さも改めて感じます。

十一月二十七日には、恒例の「MO…佳い会VOL5」今年は岩井宏文様を迎えて、みなさまの真剣な目差し、はちきれるような笑顔を見て、愛海詩の会の役員ともつくづく「よかった！」と話し合っておりました。令和三年は一つ一つの企画が有意義なものでありました。

そして令和四年の始まりの企画は、ギャラリー愛海詩に縁のある職人・作家への特別注文、オリジナル作品展です。作家とのせめぎ合いの中で創られ、私の思いに数人の職人・作家が答えて下さいました。作り手との信頼関係がなければできない企画です。コロナ禍の中、少しでも仕事をしていただけるよう、作り手の技を錆びさせてはいけない、という思いもあります。「ギャラリー愛海詩オリジナル作品展」ご高覧下さいませ。

みなさまの胸の内には令和三年、どのような思いがよぎっておられますでしょう…。新しい年、令和四年、みなさま、職人、作家にとって佳き年、希望の年でありますよう心より祈念申し上げます。

（ギャラリー愛海詩・佐藤睦子）

スタジオ内、仕事中の佐藤

- 上記の写真はギャラリー愛海詩の佐藤がラジオの仕事をしている写真でありますが、自分にとってはハードルの高い仕事をしていると思い、毎週冷や汗をかきつつの放送です。「文化と学び、職人・作家の手仕事を広く伝えたい」という思いがあります。1時間の生放送ですが、お聞き下されば幸いです。
- 会員を始め、みなさんがゲストとして出演して下さることを願っております。ご自身の仕事の事、夢、思い続けている事、感動した事などお話し下さい。出演可能な方はギャラリー愛海詩までご連絡下さい。この北の街をより活力のある大地として発信できたら…と思っております。
- 番組名は「木曜面今」毎週木曜日、FMラジオカロス札幌78.1Mhz、午前11時からお昼12時まで。毎週土曜日午前11時から再放送させていただいてます。サイマルラジオでもお聞きいただけます。（今年、12月30日はお休みです。）

縁のある職人・作家への特別注文の品々です。下記の写真は一部ですが、ギャラリー愛海詩にしかない作品群です。コロナ禍でゆれた令和3年でございましたが、確かな手技はつなげて行きたく思います。

「欅拭漆椀（黒と赤）」
口径12.5cm・高さ9.5cm
欅の手削り、刳り抜きです。蓋と胴下方に微かな揺れがあり、木目が美しく、僅かに波立つようで、静かな調べが手に伝わってくるようです。一生のおともとして毎日愛でたい逸品です。甲斐氏との電話でのやりとりでは、この調べのような揺れの撓みを願い、見事に期待に答えてくれました。

「樺拭漆組鉢」
たて15cm・よこ20cm・高さ12cm
木工作家、甲斐幸太郎氏作・光り輝く光沢、フォルムの流れがその時々を優雅に過ごさせてくれる器です。日本の木工界の若手ホープ、甲斐氏の真骨頂的仕事であります。

「花びら取り皿、トレイ」
たて16cm・よこ15cm
木工作家、甲斐幸太郎氏作・栗の拭漆で薄く削り込んだ質感が優しく、使い手のアイデア次第で多用に楽しめる作品です。6弁共、狂いなく同じサイズでピッタリと重ねられ収納できます。技の確かさが伺えます。2色（黒と赤）があり、ハート型の花びらの曲線が美しい。

「欅拭漆三日月椀（金と銀）」
口径12.5cm・高さ9.5cm
木工作家、甲斐幸太郎氏作・欅の美しい木目が三日月をアクセントに、さりげないハーモニーを醸し出しています。手削りの小さなノミの技がお椀を手にした時に心地よい温もりを感じさせてくれます。蓋は小鉢としても使え、贅沢な逸品です。かなりの集中力がいる作品で、甲斐氏の技が望みに答えてくれて、感謝と感激でした。

「あかね色の神威岬」
額の大きさ　たて30cm・よこ36cm
水彩画家、酒井芳元氏作・今年のギャラリー愛海詩・愛海詩の会のカレンダーに掲載させていただいた原画です。あかね色の、その色のトーンが幾色もあり、空と海が呼応しあいます。静かな勇気、あるいは希望を感じさせてくれる絵です。

「欧州刺繍ブローチ（バラ）」
たて6cm・よこ8.5cm
高木きらら氏作・オーガンジーの布地のバラ。周りにはビーズやスパンコールをあしらい、花の中は淡水パールなどを施した美しさが宿るブローチです。色や形を決めるのに、何度かやり直しを重ねました。バラはその色ごとに花言葉があります。優しく凛とした心を持つ女性に添っていくようなエレガントなバラのブローチです。

「日本刺繍巾着」
たて13cm・よこ10cm・マチ1cm
川戸藤枝氏作・小さいけれど、使う毎に心を豊かにしてくれる袋です。絹の肌触りも優しく、いつも側に置いて使いたい作品になるのは間違いありません。紐も川戸氏自身が組み、仕立ても絹の裏地をつけて丈夫でおしゃれにしています。各々の巾着の絵柄は微妙な色がよく刺し込まれ浮き立ち、遠目にも存在感在る作品です。

お知らせ

再来年、「愛海詩の会」はギャラリー愛海詩と共に25周年を迎えます。愛海詩の会、葛西ひとみ会長と話し合いつつ、より良い会に進めて行くために準備を進めています。1つ、2つと形が整いましたら、ご連絡させていただきます。

ギャラリー愛海詩・愛海詩の会のオリジナルカレンダーをご希望の方は複数枚でもご遠慮なく、ギャラリー愛海詩へお申し付け下さい。（無料です）

ギャラリー愛海詩　年末年始　下記の通りお休みさせていただきます。勝手を申しますが、何卒宜しくお願い申し上げます。

・12月29日（水）～1月4日（火）
　その他の日時は通常通りで、
　午前11時30分～午後6時
　木曜日は午後1時～午後6時
　月曜日は定休日

愛海詩の会 会員募集

お問い合わせ
電話・FAX(011)613-1112

作り手、使い手、各々の生活を豊かに成すために、その技と心を育むことを基とし、一人一人の生活がより、心豊かになるよう、文化的働きを推進する健やかな会です。北海道にこそより、必要な、大事にしたい「会」でもあります。

●職人・作家の手技を大切にする。
●文化的働きをして北海道に貢献する。
●くらしを心豊かに彩る。

すでに会員の方には感謝申し上げます。また、お知り合いの方々にも入会のお声掛け下されば幸いです。そして一般会員の方（年会費3,000円・会費と同額の作品購入チケットが付きます）は賛助会員（年会費1口10,000円・会費と同額の作品購入チケットが付きます）になられて、より以上に「愛海詩の会」をお支えいただければ…と思うところでございます。
ご不明な点などございましたら、どのような事でも「愛海詩の会」事務局がある、ギャラリー愛海詩へのお問い合わせ下さい。

「愛海詩の会」はみなさまの会費で運営させていただいております。営利を目的としない会です。只今、100名ほどの小さな会ですが、文化の輪を広げて行けますよう願います。

「積丹半島の静寂」
額の大きさ
たて47cm・よこ40cm
水彩画家、酒井芳元氏作・広がりのある絵で、水平線の彼方にあふれる光を感じ、水彩画としては難しいモチーフを良く収めています。自然への敬虔な祈りと、静かな心を感じさせてくれる絵です。

「水引き・使い捨てにならないお正月飾り」
たて49cm
宮本洋子氏作・紅白の水引きを束ね、ひと結びして結わえるのは、これだけの束になると集中力と技が必要です。何げない形に宮本氏の意気込みを感じます。松と亀も丁寧に作られ、新しい年を寿ぐ、すっきりとした仕上がりで、佳き日本人の心を捉える作品です。